

**作成例**  
中津市内の小学校より提供いただいた様式例をもとに記入例を作成しました。

学習支援が必要な児童の「個別の指導計画」(2学期版) ○年○組 ○○○○

	国語科	算数科
(課題) 現在の様子	①文章を目で追いながら音読することが難しい ②人前で声に出して発表することへの不安が大きい	①文章を読み取って数量の関係を式に表すことが難しい
(二学期末の姿) 支援の目標	①1文ずつすらすら音読することができる。 ②多様な表現方法で自分の考えを表すことができる。	①数値の簡単な文章題について自力解決できる。
支援の方法	【①の目標に向けて】 ・読むところを指で押さえながら読むように促す ・分ち書きされたものを用意する ・読む部分だけが見える自助具(スリット)を使わせる。  【②の目標に向けて】 ・ホワイトボードを使って書いた考えを提示させる ・書画カメラで考えを書いたノートを提示させる。 ・自分の考えが伝わる体験を重ね、できたこと認めることで自分の考えを表すことに対する自身につなげる。	【①の目標に向けて】 ・児童の経験に基づいた場面や興味のある題材を取り上げる ・場面を具体物による動作化やイラストで視覚的に捉えさせる。 ・読むところを指で押さえながら読むように促す ・分ち書きされたものを用意する ・場面を図式化して捉えさせる
(成果・課題) 評価	①どこを読むかが明確になることで読めるようになってきた。今後はわかち書きを少しずつはずしていく。 ②ホワイトボードやICTの活用で考えを伝える経験はできた。自信にもつながっているので支援を継続する。	①場面把握が十分できれば立式までつなぐことができてきた。国語の支援と合わせて文字情報を具体的に捉える支援を今後も継続していく。

本人または周囲・指導上の困りを記入しています。その背景まで分析できれば記述するとよいです。

目標設定にはその背景(困りの程度・要因)を解釈した上で実態にあった目標設定が必要です。

目標達成に向けて具体的な手立てを位置づけます。専門的な見地からの助言を参考にしたり、校内委員会や当該児童生徒に関わる教員間で意見交換したりして組み立てるといいのではないかと思います。

記入例の内容は新学習指導要領解説の国語編 p160、算数編 p327を参考にして例を作成しました。「指導計画作成上の配慮事項」の項の「○障害のある児童生徒への配慮についての事項」をみると、配慮例が示されています。

! この様式は学習支援が必要な児童に対する計画のあくまでも一例です。困りの実態に応じて活用しやすい形で作成することが大事です。

やってみてNG支援だった場合や、もう必要でなくなった支援は削除せず、このように見え消しで残しておく、次年度指導にあたる際に二度手間にならなくてよくなります。その成果や変容は評価に記述を残すとよいです。

児童生徒の変容や手立ての効果を記述しますが、「支援の方法」の欄の各項目に○△や朱書き追加、見え消しを入れる方法も考えられます。その場合この欄には児童の変容のみ記入となるでしょう。